

防災のことを考えてみませんか

(耳の不自由な方のための災害時初動行動マニュアル)

1 大規模な災害が起こると耳の不自由な方は どんなことに困るのでしょうか。

- 周囲の情報が入らず、避難方法や避難場所がわかりません。
- 地震の被害状況や避難場所についての情報がなかなか得られません。
- 家具の下敷きになって身動きがとれないとき、発声が困難なため助けを呼べません。
また、捜索者の存在に気づかず、救出につながりにくくなります。
- 避難場所に着いても、放送が分からず、食事の配給などの援助がなかなか受けられません。
- 離れた場所にいる家族などと連絡を取り合うのが難しくなります。
- 周囲とのコミュニケーションがうまくとれず、孤立してしまうことがあります。
- 停電時や暗い場所で、視覚からの情報が入らずコミュニケーションが取りにくく、不安になります。
- 補聴器や人工内耳などの電池の入手が困難になります。

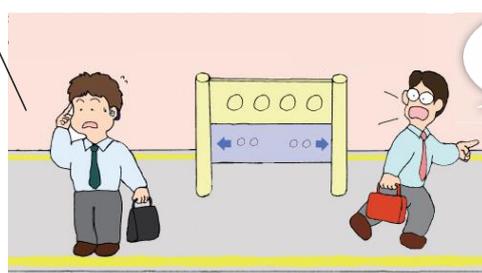
東日本大震災では…

避難所で「炊き出しの知らせが聞こえず、食事がもらえなかった」「マイクで温泉行きの呼びかけがあったが聞こえなかった。1週間も風呂に入れなかった」という聴覚障害のある方がいました。

その他、日常のコミュニケーションのために使用していた機器（スマートフォンメール、筆談器、補聴器等）が使用できなくなったことに困窮された方の経験が報告されています。

また、日頃からの災害等に備えた自らの心構え（防災訓練参加、近隣者との意思疎通等）が有効であったとの声が聞かれました。

さきほど発生した地震により、現在全線不通となっております。お急ぎのかたは、駅前よりバスをご利用ください。



※このマニュアルは、支援者用（1、2）と耳の不自由な方用（3、4）とに分けて活用できます。

2 支援してくださる方へお願いしたいこと

(1) 日ごろの支援について

防災担当者は、防災訓練などで耳の不自由な方に不便がないかを調べ、特に以下の点を確認してください。

- 被害状況をどうやって知らせるか。
- 近隣の人とのやりとりの方法、地域の自主防災組織や自治会からの指示の伝達
- 「避難所」のスタッフとのやりとりの方法
- 「避難所」への連絡掲示板や FAX の設置
- 「避難所」への手話通訳者、要約筆記者の配置 など

(2) 災害が起きたら

耳の不自由な方は音声の情報が入らないため、的確な判断や避難行動へ結びつきません。

筆談などで震災状況等に関する情報を伝えてください。

音声情報には必ず視覚情報(手話や文字による)をつけてください。

(3) 避難所で

避難所の責任者は、耳の不自由な方に不便がないかを調べ、特に以下の点を確認してください。

- 避難所の人とのやりとりの方法、コミュニケーション手段の確認をしてください。
- 耳の不自由な方のニーズ調整を行う定期的な相談時間を設けるなどの配慮をください。
- 地域の一員として、避難所生活の中でも、耳の不自由な方が積極的に役割を見出せるように配慮してください。

聴覚障害のある方は
こんなことに困ることがあります

アナウンスが分かりにくいです

次は -
新宿 -



人との会話が成立しにくいです

今晚正夫が
久しぶりに
来るわよ



こんばんは
お久しぶりです
ごきげんよう

声をかけられても内容がつかみにくいのです

何かあった
のかしら

こんにちは



特に正面以外からだと声を
かけられていることすらも分かりません

3 耳の不自由な方へ

(1) 日ごろの備え

地域の人たちに自分の障がいについて知ってもらうことが大切です。

- 「避難行動要支援者名簿」に登録し、名簿情報を提供することに同意する。
- 緊急地震速報の受信がわかるように常にスマートフォンなどを身につけておきましょう。
- 耳の不自由な方向けに消防本部が開設している NET119 緊急通報システムに登録しておきましょう。
- 地域の支援ネットワークに積極的に参加しましょう。
- 地域防災訓練等に参加しましょう。
- 補聴器やスマートフォン等は、寝る時に枕元に置くなどして、とっさの時にすぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 補聴器用電池の予備を準備しておきましょう。
- 職場や学校等の災害訓練に参加し、発生時の対応を事前に話し合っておきましょう。

(2) 災害が起きたら

- 家屋などに閉じ込められて身動きできないときは、物を叩く、笛を鳴らすなどして周囲に知らせましょう。
- スマートフォンからの確な情報を得られるようにしましょう。
- 緊急地震速報の受信がわかるように常にスマートフォンなどを身につけておきましょう。
- 周囲の人とどのようなコミュニケーションツールを使い避難行動で支援を求めるか決めておきましょう。
- 「災害用伝言ダイヤル」、「災害用伝言版」などを活用して、自身や家族等の安否を確認しておきましょう。

職場や外出先にいるときは

- 職場では職場の方の指示に従いましょう。
- 外出先ではまず安全を確認のうえ、周囲の人やスマートフォンなどから情報を得て行動を決めましょう。
- 身体障害者手帳は、被災後の福祉サービスを受けるにあたって重要です。常に携帯するよう心がけましょう。
- 無理に帰宅せず、待機するかどうか周囲の情報に注意して行動しましょう。

(3) 避難所で

- お助けカードなどを使って自分から「聞こえない」ことやどのように情報を知らせてほしいかなどを避難所の責任者や周囲の方に伝えましょう。
 - 避難所で一番コミュニケーションしやすい人にサポートを依頼しておきましょう。
 - 避難所の生活の中で、自分や家族にできる役割を見出して、積極的に協力していきましょう。
- * 避難所や公衆電話にて災害時優先的に通信できる電話が設置されます。周囲の人の協力を得て利用することも可能です。

4 災害時に役立つ情報・ツール

(1) ヘルプカード(防災カード)

- あなたの命を守る大切な情報を、カードに記入して携帯しましょう。

(記入例)

名前・生年月日・血液型・緊急連絡先・かかりつけ病院の連絡先・服用している薬の種類や量・医療的な配慮が必要なこと・健康保険証(種別、記号、番号)・身体障害者手帳番号など

(2) 耳マーク

- 耳マークとは、聞こえない人々の存在と立場を社会一般に認知してもらい、コミュニケーションの配慮などの理解を求めているためのシンボルとして全日本難聴者・中途失調者団体連合会が普及を進めているマークです。

(問合せ先: 社団法人 全日本難聴者・中途失調者団体連合会)



(3) 電話お願い手帳

- この手帳は耳の不自由な方が、外出先で電話連絡等を行う必要が生じた際に、用件や連絡先等を書いて近くの方にご協力をお願いするためのコミュニケーションツールです。

緊急事態なので助けてほしいという内容のページ(「緊急避難場所に案内してください」「警察に連絡したい」「救急車を呼びたい」など)や、用件を電話で連絡したいという内容のページ(「119番(災害用伝言ダイヤル)へ電話をかけてください」)などがあり、それぞれにメモを書くことができます。

(問合せ先: NTT 東日本・NTT 西日本、価格: 無料、配布先: NTT 東日本・NTT 西日本各支店、区市町村各自治体等)



(4) 非常食などの備蓄

- 災害直後は誰もが混乱しています。避難所で、障害者に配慮した支援体制が整うまで、ある程度の時間が必要なこともあります。避難セットとは別に、1週間から10日くらいは自宅で生活できるように非常食(一度試食して、食べやすい物)・飲料水・簡易携帯トイレなどを準備しておきましょう。



避難行動要支援者制度に関する問合せ先
津市 社会福祉課 福祉政策係
〒503-0695 津市海津町高須 515
電話 0584-53-1139

(参考)

東京都心身障害者福祉センター
「耳の不自由な方のための災害時初動行動マニュアル」平成25年3月

50音 指差し表 *災害時のコミュニケーションで活用してください。

あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ
い	き	し	ち	に	ひ	み	ゆ	り	を
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	よ	る	ん
え	け	せ	て	ね	へ	め	。	れ	?
お	こ	そ	と	の	ほ	も	ゝ	ろ	
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9